

### 3-8 事務部門管理者会議

本会議は、平成9年度より新規事業として開始した事業で、15年度で7回目となる。事務部門の最高責任者の方々を対象とした理事長・学長会議の事務局版とも言える会議で、大学の事務当局が情報化を進める上での基本的な考え方について十分理解いただくことを目的としている。

15年度は、eラーニングの可能性と限界を紹介した上で、学生1人ひとりの人材育成をITを活用して取り組むサイバー・チュータの提案を本協会と大学とで紹介し、学生の品質保証を実現するための情報のデータベース化、教員と一体となった職員の支援・役割りについて問題提起した。また、調査結果をもとに今後の情報環境の整備に対する方法性を報告するとともに、本協会の著作権処理事業、補助金申請上の留意点について事務局から説明があった。以下に、開催要項を掲載する。

#### 平成15年度事務部門管理者会議開催要項

日 時 : 平成15年11月28(金) 13:30~18:00  
場 所 : アルカディア市ヶ谷(東京、私学会館)

#### I. 目的

教育の情報化を通じて学生一人々に適した学習環境を実現するため、事務部門管理者に大学として対応すべき教育支援の課題、対応策、補助金の活用について関連情報を提供し、理解の普及を図る。

#### II. プログラム

1:30 開会挨拶 戸 高 敏 之 氏(私立大学情報教育協会会長)

1:35 講 演 「教育改革とeラーニング」

教育改革の成否は、教員と職員が一体となり、大学あげての教育支援が組織的に展開されるか、否かに依存してくる。そこでの教育は、教員が「教える授業」から学生自からが「学ぶ授業」へ、教育方法の抜本的な転換が不可欠となってくる。その一つの手段として、学生の学習意欲を惹起し、いつでも、どこでも学習を支援する手法としてのeラーニングについて、その可能性と課題を紹介する。

講 師 : 玉 木 欽 也 氏(青山学院大学経営学部教授)

2:35 休 憩

2:50 問題提起 「学生の品質保証を可能にするサイバーチュータの提案」

大学の評価は、教育の成果としての学生一人々の質が問われる。

これまでの教育は、大衆化の中でマスとしての集合教育が中心であったが、これからは、学生一人々に対して最適な指導陣、相談者を交えたきめの細かい個人教育により、大学が掲げる人材育成の実現が不可欠となる。そのためには、大学教職員が一体となった個人指導を可能とするため、ITを活用したチュータシステム、指導・助言の情報システムの構築が要請されてくる。

総論担当：井端 正臣 事務局長（私立大学情報教育協会）

事例発表：斉藤 和郎 氏（札幌学院大学情報処理課長）

3:50 休憩

4:00 「大学における情報環境の整備計画と本協会の取り組み」

情報環境の整備計画に対する大学の方向性の調査結果を報告するとともに、著作権処理、コンテンツ作成など本協会事業としての対応を報告する。

【説明】 本協会事務局

4:25 「情報関係補助金に関する申請のノウハウ」

補助金の補助対象の範囲や申請上の留意点について徹底した紹介を行い、大学の予算編成に反映いただけるよう情報提供を行う。

【説明】 本協会事務局

5:00 コミュニケーション

6:00 閉 会

